

# 第20回全日本青少年育成アドバイザー連合会総会

2016年6

月17日(金)

司会 谷

本治事務局長

## 1. 開会式

### 1. 開会の言葉

【 谷本事務局長 】

こんにちは。全日本青少年育成アドバイザー連合会の第20回総会にご出席いただき、心より感謝申し上げます。今日は、来賓に石破大臣もお迎えいたしました。

それでは、開会にあたりまして、全日本の会長よりご挨拶申し上げます。

### 2. 会長挨拶

司会：今回山本会長が声帯の手術をしましたので、声が聞こえづらくなっていますので副会長の

伊藤さんからお話をさせていただきますので、よろしくお願い致します。

【 山本邦彦 全アド連会長／伊藤順子 副会長 代読 】

(山本会長が声帯手術のため声が出ませんので、伊藤副会長が会長の準備したあいさつ文を代読いたします。)

平成28年度、第20回の記念すべき大会の開会にあたり、ご挨拶申し上げます。

平成9年9月11日、このオリンピック記念青少年総合センターで、今は亡き、広島県の山元利成(としなり)さんを初代会長として発足し、志に燃えた先輩たちの、たゆまぬ努力によって、今日まで、育成運動が続けられて参りました。

全ての運動が、手弁当のボランティアであり、それぞれの会員が仕事の合間をぬっての活動であるにも関わらず、その志を受け継ぎ、全国からご参集頂きました仲間・いや、同志の皆様にご心から御礼申し上げ、この20周年記念大会を、共に喜び合いたいと思います。

また、少ない会員の中で、この大会を準備いただいた関東ブロックの皆様に、厚くお礼申し上げます。

とりわけ、公務ご多用の中、青少年育成の重要性を深くご認識いただき、常日頃から我々の運動を支援して頂いております

衆議院議員、石破 茂（いしば しげる） 地方創生担当大臣をはじめ・・・  
全国青少年育成県民会議連合会の八村輝夫（はちむら てるお） 会長、様  
本会顧問の上村文三（かみむら ぶんぞう）様・・・

総会の後に御講演をいただく内閣府参事官補佐 園部重治（そのべ しげはる）様

の皆様、感謝と敬意の誠を捧げたいと思います。本当に有難うございます。今後ともよろしくご指導・ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

又、この後（あと）、アドバイザーとして多年、青少年の健全育成運動に尽くされた功績により、表彰を受けられる皆さん。おめでとうございます。今回の受賞を新たな出発点として、私達後輩をご指導いただき、益々のご活躍をお祈りいたします。

さて、私が申し上げるまでも無く、急激な社会の発展と、それに伴う変化によって、様々な社会問題が生じ、その強い影響を受けて、青少年問題も複雑で深刻になり、地域の未来や我が国の将来に、不安の影を落としています。

我が国の現状を見る時、産業・経済をはじめ、あらゆる分野で激しい国際競争が続き、この渦（うず）の中で、いかに勝ち抜くかに、必死の状況であります。

【 山崎政和 関東甲信越B会長 】

### 3. 来賓挨拶

司会：続きまして、来賓の方々にお話をさせていただきたいと思います。

はじめに、内閣府特命担当大臣石破茂様よりお願い致します。

【 内閣府特命担当大臣 石破茂様 】

ご紹介いただきました 地方創生担当国務大臣の石破茂でございます。

実物は初めて見たという方はあるかもしれません。テレビで見るほどは怖くないと思ったと思います。山本会長が私の選挙区でありまして、私も青少年育成活動には30年程関わっているし、山本会長にはずっと昔からお世話になっております。

青少年育成国民運動が始まって50年、アドバイザリー連合会を作って20年、末次一郎先生が、“青少年は日本の希望である、日本で明日を担い、世界を背負う”とおっしゃったその言葉の通り青少年の育成ということは、大変大きな意味合いを持つものです。

私の感じなんですけど、良い子どもたちが増えた。正直言ってそう思うんです。なんでそんなことを言うかと言いますと、修学旅行でも国会見学というのがございまして、中学生たちが、東京にやってくる、ディズニーランドとか、東京タワーとか、いろんなものがあるんですが、まだまだ勉強しなければまずいというので、国会議事堂の見学にも来るわけです。

一時期すごく荒れていたと思います。整列といってもきちんと整列もしないし、ぺちゃぺちゃ喋っているし、集中力もないし。この国いったいどうなるのかねって思ったのが、20年くらい前でございましたが、ここ2、3年、きちんと整列をし、おしゃべりもせず、こっちの話を真面目に聞いているのを見ると、子ども達はしっかりと変わってきたなと思います。皆様方のいろんなご努力のおかげでございます。

ネット社会とかそういうところがありまして、もう中学生、高校生になりますと、ほとんどがスマホを持っていて、1日3時間4時間それに費やしてといるということがあります。これは匿名性がございまして、それを見ていると、人を妬んだり、あるいは、人を叩いて自分がいい気分になったり、というすごく匿名性に隠れた嫌な部分というのが出てきたのかもしれない、という思いも同時にあります。この子ども達がいい子になりつつあるなというのと、ネットにかきこまれているいろんな、あれもいじめの類かと思いますが、これをどう理解をしたら良いのだろうか、私はいまのところ正直言ってよくわかっておりません。

大人が変われば子供が変わるという話であります。それは大事なことで、私の父親は明治21年生まれで、生きていたら多分110歳くらいになると思います。亡くなって36年になりますが、財務官僚でしたが、あまりうるさいことを言わない人でした。ただ言っていたのは、人の役にたてとは言わないが、せめて人に迷惑はかけるな。というのは、もうよく言っておりました。人に迷惑はか



けるな。自分は人に迷惑をかけてはいないだろうか、ということは常に問うていかねばならないことですし、これが一歩進んで、少しでも世の中の役に立てないだろうかということを自分の胸に問いかけるような、そういうような子ども達、それは、親が、大人が創っていくものであって、自発的にそのようなものができるかと私は思っておりません。

かつて森内閣で、農林水産副大臣をしておりましたときに、アフリカのセネガルという国に出張したことがあります。アフリカの西の国でございます。ブラックアフリカでございますが、かつてフランスの植民地でしたので、国民はみんなフランス語を喋っている国なんですけど、今から20年くらい前になりますけど、そこで、少しだけ時間がありましたので観光地1箇所に行きました。

マメール灯台という灯台があります。そこに、セネガルの女子高校生たちが、社会見学に来ておって、即席の座談会みたいなのをやったんですね。在セネガル日本大使館の職員が、これは日本から来た農林副大臣であってという話をして、そこで座談会をしたのですが。

君たち将来何になりたいですかと聞いたときに、女子高生たちが、ハイハイハイって言ってみんな手を上げて、私はお医者さんになりたい、私は外交官になりたい、私は行政官になりたいです、そして、国のためにみんなのために働きたいですって、本当に目を輝かせて真剣に語っていたのが、ものすごく印象深いものでした。

日本の女子高生にそういった話、将来何になりたいって聞いたときに、私はこれになりたい、これになって国のために働きたい子は、10人に一人いるか100人に一人いるか、むしろその問いかけをすることが嘲笑の対象になっているかもしれません。わたしは、お国のためにとかそういうことを申し上げるつもりはございません。しかし、己を犠牲にして何ができるかという問いかけを子ども達にしてもらえるように、大人達が変わっていかなければならないのだと思っております。

バラバラと申し上げて恐縮ですが、今度の7月10日行われます参議院選挙から、18歳の有権者というものが登場いたします。で、私が子どもたちに言いますのは、選挙ですから、それぞれの党がいいことを言うんです。どの党もさもすばらしそうなことを言うんです。だけど、1票入れるときに、自分が総理大臣だったらどうするかということを考えて1票入れてね、ということをお願いします。国民主権というのはそういうものなのであって、小学校でも中学校でも高等学校でも国民主権という言葉だけは習いますけど、それって一体なんだろうかと、ということをお教えている教育はほとんどなかろうと思っております。

かつては、君主主権ってございましたが、王様が勝手に戦争を始めて勝手に止める。王様が勝手に税金集めて勝手に使う。国民という概念もありませんでしたから、そこにいる人々は、王様に向かって、お願いですから戦争なんてやめてください。お願いだから税金をこんなにとらないでくださいと、懇願する立場でしかございませんでした。それが、国民主権ということになって、しかし、みんなが、その度々に投票して、国家意思を決めるわけにはいかないのです、議員とか、大統領とかそういうものを選んで、代わりにやってもらおうということになっております。

であるならば、せめて投票のときだけは、主権者であるならば、自分が内閣総理大臣になればどうするかということを考えて1票を入れてもらわないと、それは主権者でもなんでもございませぬ。税金は負けてね、年金は沢山ほしいな、公共事業だっていっぱいやってほしいし、医療費はなるべく安いほうがいいし。そういうことやっているとな国は潰れるに決まっているのでありまして、自分が、主権者自分が、総理大臣だったらどうするかということを考えて、投票することが国民主権って意味なのだろうと私は思っておるところでございます。

最後に、東京で開催されておりますが、これから先、日本の国はどうかということ、1億2千7百万人の国民がいるんですが、このままの出生率がずっと続くとしたしますと、西暦2100年、あと84年後、日本人は5,200万人になります。今の半分以下です。200年経つと、今より1/10の1,391万人、300年経つと今の1/30、423万人になります。この計算をずっとすると、西暦2900年には、日本人は4,000人になります。西暦3000年には1,000人になって、この国は無くなります。

私の鳥取でもあるいは岩手でも、青森でもどこでも、地方の人口減少は止まりません。東京への一極集中というのは、まだ止まっておりませぬ。その山は、18歳と22歳の子でありまして、高校を出ました、それぞれの地域で、高校を出た子ども達を受け入れるだけの高等教育機関が存在しませんので、そこで東京へ出てまいります。もう一つは、地方で大学終わって就職するときに自分の地域で就職せずに、東京で就職するというのがありますので、二回人口集中の山がくるわけです。東京は47都道府県で出生率断トツの最低でございます。これをどうやって止めるかということを考えていかねばなりませんし、東京は、情報であり、文化であり、金融であり、その中心として、日本を引っ張っていただかなければならぬのであって、どうやってこの国のだんだんだんだん崩壊しつつあるこの国の姿を止めるか。ということも私どもが青少年たちに残していかなければ

ればならないことだと思っています。

今さえよければとか、自分さえよければとか、これをどうやって払拭するか、これを大人が示していかなければと思うわけです。偉そうなことを言える立場でもなんでもございませませんが、なんとか、この先人達が築いていただいた自由で平和で豊かな時代を次の世代にのこし、そして、日本の国は課題先進国であります故に、課題を解決をする姿を世界に示すということも、我々日本国民に与えられた責務であると思っていますところでございます。

なんか政治家みたいな演説になりましたが、政治家ですので・・・。

法令等も色々検討いただいているところでございます。青少年育成基本法という法律、これは、多くの党派にご理解いただかなければなりません、多くの党派のご理解をいただいた結果、なにを言っているかよく解らないというような、法律になることも避けていかなければなりません。私ども党の方で、これだけが正しいんだということに陥ることなく、いかにして多くの党派のご理解をいただきながら、なおかつ、本質を棄損しないようにできるかということを考えて、ご協力いただかなければなりません。

長い話をいたしました。青少年育成アドバイザー連合会の、ますますのご発展を、そして、この会が有意義なものとなりますことを祈念致しまして、挨拶いたします。

( 石破大臣はご公務のため すぐに退席されました。 )

(また、巻き末の集合写真は石破大臣がご来場下さって直ぐに撮影致しました。)

司会：続きまして、全日本青少年育成県民会議連合会会長の八村輝夫様よりお話をいただきます。

【 全日本青少年育成県民会議連合会 八村輝夫 様 】

みなさんこんにちは。全日本青少年育成県民会議連合会の八村輝夫でございます。今日は20回の記念すべき会に、お呼びいただきまして本当にありがとうございます。

今日表彰をお受けになる方がいるようでございますが、本当に長い間、色々ご苦勞いただきましてありがとうございました。改めてここで礼を申し上げたいと思います。



さて、今、石破大臣のお話にありましたけれど、私もそういうことを申し上げたいなと思っておりました。我々は、今まで、おとなが変われば子どもが変わる、子どもは親の背中を見て育つものだと、これが考え方の元にあると思うんですが、こうやってきたんですけど、今何十年たっても、おとなが変わってない、最近の世相を見ていただいてもそうですが、都知事の問題、市議員の問題、こんなところで言っているのかどうかわかりませんが、憲法を自分勝手に解釈して法律をつくってしまうような政府の問題、あるいは、毎日、新聞、テレビに出てくる、こんなことかと思うような事件がおとなの間でも起こっております。アメリカでも、あるいは世界各国でも。この間もアメリカで鉄砲で打って殺したというような、ことまで起こっていますから、どうもおとながおかしくなってきたんじゃないか。その原因はなんだろうか。

この50年で、世界が大幅に変わってきた。社会が大幅に変わってきた。そういうことが言えると思います。

ちょっと長くなってしまいかもしれませんが、このことだけは申し上げておきたいと思います。

まず家庭が、言い方はきついですけど崩壊した。ほとんどの家庭は崩壊してないんですが、家庭といえない家庭、今までの概念から言って、かなり増えてきた。これは経済的な問題もあるし、あるいは、社会的な問題もあると思いますが、そういうものが増えてきた。

それから、地域自体が、人口現象あるいは高齢化などによって、昔のうるさい近所のおじさん、おばさんがいなくなって、地域自体の崩壊が起こってきている。村の祭りができない、町の行事ができない、そういうことが起こってきております、各地で。

そういうことに対して、どういうことに今なっているか、世の中が。それぞれが、各地のボランティアだとか、NPOだとか、そういった民間の方々の、全体の力によって、なんとか維持されてきているように思います。

たとえば、家庭の崩壊でいえば、今、政府も力を入れてますけど、フリースク

ールだとか、居場所づくりだとか、そういう対策をどんどん打ってきておりますが、それも各地に十分あるとは言えません。あるいは、地域の消滅のことについても、NPO なんかもいろんな団体いろんな行事をして、子どもたちを集めて、運動してきている。それに加えて、今度はメディアが、無茶苦茶になってきている。スマホという、要するに技術が行き過ぎて人間の能力を超えて情報がどんどん若い人にいいことも悪いことも入ってくる。おとなでさえそうですから、子どもに入ってくるれば、わからずに使ってしまう。

この間、私もパソコンやってて、名前を言っていていかどうかわかりませんが、ウィンドウズ 10 というやつが、パソコンが自動的に動き出して、ウィンドウズ 10 にグレードアップしますと、どんどんどんどん進んでしまうんです。止めようと思っても、止める方法がない。仕方がないんで、電源切っちゃいましたけど。今、全国的に問題になってます。マイクロソフトが新しいソフトを開発して、今までよりもずっと機能のいいソフトでありまして、それを皆さんがお使いになるのは、いいことです。マイクロソフト社にとっても、いろんなところでのソフトの対策をしないで、ウィンドウズ 10 だけに対応すればいいように、これは、経済的にも効率が非常にいい。そういうようなことでやってるみたいですね。

そういうことが、パソコンのソフトの問題だからいいんですけど、いろんないいニュース、悪いニュース、例えばいじめのことだとか、子どもたちが気がつかないうちにどんどんどんどん、そういうものが出回ってきている。意識するとしなくていかかわらず、子どもの前にあらわれてきている。これはどういう具合にするかというのが、今の大きな問題だと思うんです。こういうことが起こってきている。

おとなの方はというと、さっきも申し上げたように、変わってない、かえって悪くなっている。だから、今までのような運動じゃなくて、これからがわっと変わって新しい世の中で今どうやったら、健全な子どもたちを育てていけるか、いうことを改めて考えていかないといけない世の中になってきているんじゃないかと思っています。

言い方を変えれば、子どもはおとなの真似をするから、おとなが自分で変わっていかう。おとなが変われば子どもが変わる、おとなを変えて子どもも変えよう、おとなが変わろうということが、積極的な変化になっていかないといけない。

政府の方が、いろいろな現象が出てきているので、格差問題、少子化問題、いろんなところでいろんな問題が起こってきていて、内閣府の皆さんは、本当になってこまいになっている。しかし、行政がやると、その部門だけに限られてしまいう、要するに、少子化の問題であれば、厚生労働省、貧困の問題であれば福祉関



係、そういうものの対策はどんどん、どんどんいい対策がでてきている。

しかし、全般でこれを眺めて、世の中をどうしようか考えることが、残念ながら今のところありません。

そこで、山本会長なんかがおっしゃっている青少年育成基本法であると思うんです。教育基本法があるように、子どもたちを育てていって、将来日本を背負ってもらうには、こういうことを大まかなことでいいと思うんです。細かいことを言うとまた色々問題起こってくると思うんです。精神規定でもいいと思うんですが、基本法というものが、必要ではないか、そういう具合に思うんです。

長くなってしまいました、アドバイザー連合会の皆さんの20年、それは私どもの県民会議と同根であります。同じ株に生えた一本から出たアドバイザー連合会であり、1本が都道府県県民会議であり、その県民会議の方の幹が倒れてしまいました。今、ちっちゃなこれをなんとか太く、と思いますが、なかなか思うようにいきません。

このお祝いの席で言うてはなんですが、皆さんの地域で入っていただいているところもございますので、県民会議、その同類の会、団体に連絡を取っていただいて、力を合わせて、全体の青少年育成運動をやっていこうよということを、我々の方で動かないとと思っており、また、皆さんに向けてもお願いをしたいと思えます。

ちょっと長くなりました。最後はお願いに終わって、これから皆さんと一緒に、日本を背負っていく若い人たちを将来希望を持てるように、先の大臣の話ではありませんが、今、日本で聞くと、私は子どもが好きだから保育士になりたいとか、そういうような話が出てくるのは、わかるというか、国をなんとかしたいというのは出てこないというか、そこが出てくるのがいいのか悪いのかというような意見がありますが、そういった希望を持てるような世の中に、お互いしたらいいんじゃないかと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

どうも、ありがとうございます。

司会：それでは、来賓のご紹介をさせていただきます。

先ほどお話をさせていただきました、内閣府特命担当大臣、石破茂様

今お話をいただきました、全日本育成県民会議連合会八村会長様

そして、内閣府参事官補佐 園部様（拍手）ありがとうございます。

それと我々の顧問、上村文三さんにお越しいただいていますので（拍手）

ありがとうございます。

#### 4. 表彰式

青少年育成活動に貢献された方々への表彰が行われました。欠席された方々へは各県へ表彰状をお送りすることになりました。(資料最後のページ参照)

1. 全日本アド連特別表彰 出席者6名 欠席者20名
2. 全日本アド一般表彰 出席者3名 欠席者1名
3. 全日本アド感謝状 出席者1名 欠席者0名



#### 5. 内閣府関連事業説明

司会：それでは、すこしお時間頂いて、内閣府の園部参事官補

佐様にこれよりご講演を頂きます。  
ご挨拶を兼ねてお話をさせていただきますので、  
袋に資料が入ってございますのでご覧下さい。



【内閣府 園部参事官補佐 様】

まず、ご自身の立場と活動内容の紹介からお話し下さいました。

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 青少年企画担当 参事官補佐 というお立場で、主に啓発事業を担当しているので、関連する中央大会・研修会・表彰式等にも幅広く参加しています。

内閣府が企画している活動 ①「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」は子供や若者が、地域や社会の輝く未来に向けて行った社会貢献活動において、顕著な功績があった個人又は団体を顕彰し、もって、子供・若者の健やかな成長に資することが目的です。以前は、社会貢献青少年表彰（内閣府特命担当大臣表彰）としてきたが子供・若者の社会貢献活動に対する評価や社会的認知度を一層高めるため、内閣総理大臣表彰として新たに創設。②「子供と家族・若者応援団表彰」は子供・若者を育成支援する活動及び子育てと子育てを担う家族を支援する活動において顕著な功績があった企業、団体又は個人を顕彰し、もって、子供・若者の健やかな成長に資することが目的。

③「子供と家族・若者応援団活動事例紹介事業（チャイルド・ユースサポート章）」は子供・若者を育成支援する活動及び子育てと子育てを担う家族を支援する活動を広く社会に紹介することにより、同様の活動を行っている方々やこ

れから行おうとする方々の参考に供することが目的の事例集。

28年度子供・若者白書の最後のページ、7 青少年関連指導者一覧 表内 (5) 民間の有志指導者（ボランティア）に“青少年育成アドバイザー”をお寄せ致しました。

もう一つの 内閣府HPの青少年団体一覧に全日本アド連を載せると言うことですが、現在の内閣府に種々の問題がありHPへのアクセスも厳しい制限があるため載せることができていません。

2014年に「子ども・若者育成支援推進法」の改正案として「青少年健全育成基本法案」が提出されました。「青少年健全育成基本法案」は自民党内では通っているが、公明党との調整がまだできていない状況です。その内容は、現行の「子ども・若者育成支援推進大綱」である法律はそのままに置きながら、理念や責務や大きな方向を示唆するような、その上の、上位理念法を制定しようというものです。“こども・若者”という言葉は、対象が0歳からということで“青少年”よりも幅広い範囲を表現・イメージできるということで使用致しています。

安倍内閣の事業として“一億総活躍社会”があり、その中の青少年開局部になります。内閣府・厚生労働省・文部科学省の三省が連携して寄り添い型・伴走型の支援を全国展開するということです。困難を有する子ども達を対象とする政策が中心となっています。

これらは、いずれも5年10年の長期スパンで途切れること無く推進していくとする政策です。

それでは、資料を追うような形で説明をしていきます。

#### (P.178) 2. 子供・若者育成支援推進大綱

この法律が制定されたのはH.22年民主党政権下で政治主導がうたわれていた時代であり、5年の経過と政権交代もあり見直しをしているということです。そこには大きな柱が3本あります。

その一つに、基本的視点の再構築：子供・若者が大人と対等なパートナーとして考えられていましたので、育成をするというより、その主体性自主性を尊重する、ということでした。

見直しをして、時代の未来をになう若者が健全に成長し、持てる能力を活かして自立、活躍出来るように家庭を中心としつつ学校・地域・企業が連携して支援していくといった、方向に変更しています。また、子供の問題も子供の貧

困・虐待・不登校と複雑に複合された問題になってきているため、それを踏まえた対応施策に変えております。

◇ 以下、以前と変わった箇所やポイント・キーワードになりますので、資料を参照下さい。◇

(P. 180) 第3基本的な施策 1. 全ての子供・若者の穏やかな成長

(P. 181) 子供の発達段階や状況に応じた対応をインターネットを利用した調べ学習など

(P. 182) 妊娠出産・育児に関する教育、スクールカウンセラーの充実、いじめ防止対策等

(P. 183) 被害防止のための教育

(P. 184) 若者を使い捨てにするようなブラック企業対策

2. 困難を有する子供・若者やその家族の支援（アウトリーチの充実）

(P. 185) 障害者の支援

(P. 186) SOSを・・・《川崎の事件を踏まえてSOSを受け止める》

（薬物乱用防止）

（社会内処遇を通じた取り組み等）－《社会貢献活動をさせる》

(P. 187) 子供の貧困問題への取り組み

(P. 188) (官公民の連携した取り組み)

（性同一性障害者等に対する理解促進）

(P. 189) サイバー補導の促進・少年の生を売り物とする営業・「チームとしての学校」

(P. 190) 「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」

《5年後には存在しているであろう新機器等を想定した対応策を》

《ネット依存への対応》

(P. 192) 5. 創造的な未来を切り拓く子供・若者の応援

グローバル化する社会、海外留学、パラリンピック

理数系教育を実施するスーパーサイエンスハイスクール

(P. 193) (2) 広報啓発等（保護者を含む大人に対する啓発）

(P. 194) (4) 施策の推進等（国の関係機関の連携・協働の促進）

内閣府は、コマーシャル出来ることが無いのですが、昭和50年より毎年夏の10日間だけ一般公開されていた迎賓館赤坂離宮が、2016年4月19日より通年公

開になりました。是非帰りに。

それでは、第58回目になります歴史のある“白書”でございます。  
白書ですので、基本的には施策をもちこんでいるだけでございますが、簡単に説明致します。

◇約5分程度で“白書（概要）”の記入内容を説明下さいました。資料を参照下さい。◇

司会：有り難うございました。

続きまして総会をおこないたいと思いますので、10分の休憩の後、  
15時20分より総会を始めます。